

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 楽々)

事業所番号	0693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 グループホーム ほなみ家		
所在地	山形県東田川郡庄内町余目字四ツ興野123		
自己評価作成日	平成 29年 7月 7日	開設年月日	平成22年 9月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の人格を尊重し、自分らしく最良の生活が送れるよう、一人一人の思いや気持ちに寄り添い、その人らしい生活を支えてまいります。地域のつながりを大切に、家庭的な雰囲気の中できめ細やかな支援をし、季節を感じられるよう外出や行事を企画し、実行しております。安心し、また、張りのある生活を送れるよう役割を持って頂き、利用者様と一緒に泣き笑いし自然体でお付き合いをし、パートナーとして生活を共にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎えた本事業所は利用者の介護度が年々高くなってきているが、職員は利用者の気持ちに寄り添いながら、好きなこと、できることを大切にケアを実践し、「家庭的な雰囲気の中でその人らしい暮らしを支えます」という理念の実現に事業所を挙げて取り組んでいる。協力医療機関や訪問看護と連携を図りながら看取り等重度化に向けた支援に取り組むとともに、自宅で最期を迎えたいという利用者・家族の願いを叶えるため、自宅に戻った利用者を職員が訪問・支援を行い、あたくも家族の一員として安らかな旅立ちにも立ち会っている。経営方針に基づく「職員が働きやすい環境づくり」の一環として、職員が希望に沿った休暇を取得できるように毎月次月の休暇予定を申請する仕組みが整備されている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 29年 7月 24日	評価結果決定日	平成 29年 8月 3日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのスタッフルームと玄関の目に入りやすい場所に掲示し、地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援しております。	理念及び理念を基に作成したユニット目標を年度当初に確認し、玄関・スタッフルームに掲示し、折に触れて振り返りを行うことで管理者・職員で共有している。利用者が孤立しないように寄り添い、好きなこと・できることを大切にしたいケアを実践することで「家庭的な雰囲気の中でその人らしい暮らしを支えます」という理念の実現に事業所を挙げて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域活動に参加し、夏祭り等に参加して頂いたり、園児や学生との交流、ボランティアや慰問、畑作業の援助等、地域の方々と交流しています。	町内会への加入、廃品回収への参加、防災訓練への地域の協力、近隣住民を招待する夏祭り、散歩の際の挨拶等を通し、地域の一員として認められ、馴染みの関係が築かれている。また、町の移動図書館、歌や農作業支援のボランティア、園児や学生との交流等を通して地域とのつながりを深めている。認知症カフェや認知症サポーター等地域資源としての役割も担っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンメイトに参加し、認知症への理解や知識の発信を行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催しており、利用者様や事業所の現状を理解して頂けるよう報告し、意見交換を行っております。また、会議録にて全職員が内容を把握し、サービス向上に努めております。	運営推進会議は行政、包括、自治会長、地域代表、家族代表等が出席し、2ヶ月に1回開催されている。事業所から運営状況や行事予定等が報告され、感染症対策、水害訓練、看取り等について活発な意見交換が行われている。議事録回覧により全職員に徹底し、出された意見をサービス向上に活かしている。会議と共に昼食会を催し食事についてアンケートを行い意見を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは随時連絡をとり相談や確認をし、意見や助言を頂く等、積極的に関係づくりを行っております。	町担当者が運営推進会議に毎回出席している。日頃から連絡を取り合い、相談・確認・助言等を通して協力関係を築いている。また町からの要請を受け、管理者がキャラバンメイト養成研修の講師を務めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	スタッフ会議などで身体拘束について学び正しく理解しております。利用者様の行動パターンの把握や状況の観察を行い、所在確認や職員同士確認し合いながら、利用者様や環境に合わせ工夫してケアする事で拘束しないで生活する事ができております。	研修会・勉強会に参加したり、職員で話し合いながら、事業所方針である「身体拘束ゼロ」を実践している。利用者の性格や危険に繋がる行動パターンを把握し、職員間で共有し見守りを強化することで、鍵をかけないで過ごす工夫や、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ヒヤリハット等は事故対策防止委員会に報告され、対策を検討することで安全確保及び不適切な対応防止にも努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員がレポートにまとめて回覧したり、スタッフ会議などで話し合い知識を身につけております。日頃から傷や表情が優れない等ないか観察し、職員間で情報を交換し虐待の防止に努めております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、レポートにまとめて回覧し理解を深めております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細な説明を行い、不安等残らないように話し合い、理解、納得して頂いたうえで契約を結ぶようにしております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、利用者様は日常の会話の中で、ご家族は面会時の状態報告や会話の際に意見や要望を求め、意見を取り入れたり改善しております。	日頃から利用者の声に耳を傾け、面会や利用者の状況報告の際に家族の意見・要望を聞き取りしている。また、家族が参加する夏祭りやクリスマス会等の行事の際は積極的に声掛けを行い、気軽に話せる雰囲気づくりに努め、信頼関係を築くよう取り組んでいる。聞き取りした意見・要望を運営に活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や月一度のスタッフ会議、年に一度の代表との個人面談にて意見や提案をして頂き、話し合う機会を設け、意見を取り入れたり改善しております。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて職員の現状を把握し、資格取得者や個々の能力に応じて昇給等実施し、やりがいをもって働けるような環境づくりや条件の整備を行っております。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年二回以上の施設内講習(外部より講師をまねいて)や、施設外研修のパンフレット等回覧し、積極的に参加を勧めスキルアップの機会を設けております。	内部研修は研修委員会が計画し、外部研修は管理者が職員の希望を聞き、職員の力量を勘案し派遣している。参加した職員は報告書を作成し、ユニット会議で報告するとともにアンケートを取って研修内容の有用性を確認している。また個人目標の設定と自己評価を行うことで振り返りを行っている。代表者は面談を通して社員の力量把握を行うとともに社員から意見・要望を聴取し、「やりがいを持って働ける環境づくり」に繋げている。目標達成計画に掲げた「知識と技術の向上」については取り組みが行われている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や交流会等に参加し、意見や情報交換を行い、サービスの向上に反映させております。	酒田地区地域密着型事業所連絡会の研修会・交流会等で知識・技術の向上に努め、町主催の認知症カフェで他事業所の職員と情報交換を行い、ネットワークづくり・サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安、要望等を十分に聞かせて頂き、安心して頂けるよう利用者様に寄り添う事で友好的関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や悩み、意見、要望等を十分に聞かせて頂き、不安や悩みを解消し信頼関係を築けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の思いや希望を確認し、本人の心情の理解に努め、早急に対応すべき事、時間をかけて検討すべき事等話し合い、本人とご家族の理解を得た上で、他のサービス利用を含めた対応が出来るよう支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力に応じた作業を一緒に行い、分からない事や生活の知恵を教えて頂いたり、お互いに支え合い、楽しみを共有する時間を多く設けるようにしております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の近況報告を行いながら、ご家族の気持ち、意向等を伺い、本人と良い関係を継続して頂けるよう心掛け、共に本人を支えて頂いております。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの床屋さんに通ったり、化粧品屋さんに来て頂いたり、友人、知人の面会時に、また来て頂けるような雰囲気づくりを心掛けております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、職員が間に入って利用者様同士が交流できるよう支援しております。また、利用者様同士の相性を把握し、席の配置等工夫し、楽しく会話やお世話が出来る場を設けております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も施設に遊びに来られるご家族もおり、思い出話や近況等伺う等交流したり、また、夏祭りのお知らせをし参加頂いております。入院や他の施設に転所される際には、必要に応じて情報提供を行っております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴やご家族からの情報、日常の会話から一人ひとりの思いや希望の理解に努め、聞き取りが困難な方は状態や表情等から汲み取り、その方の立場に立って考え、自分らしく生活が出来るよう支援しております。	センター方式アセスメントシートを用い、面会・利用者の状況報告時に家族や知人からの聞き取り結果や日常生活の仕草や行動からの気づきを基に職員で話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでの習慣等を本人を含め、ご家族や知り合いの方からお聞きしたり、日常生活や会話等から情報収集を行い、定期的なアセスメントを行っております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、状態や行動を観察し、記録や表を用いて状況確認を行っております。毎日状態が違う方もおりますので、その場で状態に合わせた対応をしております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントとモニタリングを行い、本人やご家族の意向、意見、要望をふまえ話し合いをしております。また、スタッフ会議等で利用者様個々の状態や問題点を確認し、改善策や支援方法を検討し、介護計画に反映させております。	利用者や家族の意向を確認し、本人の好きなこと、できることを大切に、現状に即した介護計画を作成している。担当者が3ヶ月毎にモニタリングし、6ヶ月毎に再アセスメントを行い、ケア会議でアイデアを出し合い、評価を繰り返しながら、状況の変化に応じて計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を介護記録に個別に記入し、注意する事や気づいた事柄は連絡ノートに記入、活用する事で職員間で情報を共有し、都度話し合いを行っております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>定期的にボランティアや慰問、移動図書館等があり、地域の方々の支えにより利用者様が楽しみを持つことが出来ております。本人の力を大事にし、地域の一員として豊かに暮らしていけるよう支援しております。一人ひとりの状態、状況が変化していく中で、職員間で情報を共有し、状況に合った柔軟なケアができるよう心掛けております。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科と歯科医の定期的な往診の際、情報提供を行っております。また、健康管理を重視し、異常の早期発見に努め、体調不良の際には本人、ご家族の希望に沿えるよう訪問看護や受診をしております。</p>	<p>利用者・家族が希望するかかりつけ医となっており、定期往診や訪問看護も行われている。受診支援は原則家族が行っている。受診時は利用者の日頃の様子を書面で医師に情報提供し、受診結果は電話等で家族に伝え共有している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>施設の看護師や訪問看護師と情報を共有し、利用者様に関する事を相談したり、一人ひとりへの対処、対応の方法や助言を得ております。また、必要に応じ往診や受診をしております。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご家族や病院関係者と連絡を密に取り合い、状況や様子、結果等の情報交換を行っており、退院時は食事介助の様子等、実際に病院に出向いて、退院後の適切なケアに活かしております。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての研修を職員で共有しております。急変時に予測される事態について予めご家族に説明し、終末期には医療機関やご家族と密に連絡を取り合い方針を共有し、その人らしい最期を迎えられるよう情報交換を行いながら支援しております。	重度化した場合の対応や看取りについて入所時に家族に説明している。終末期ケアに関する学習・看取りの経験を積み重ね、終末期を迎えた利用者が安楽な最期を迎えられるよう協力医療機関・看護師と連携しながらチームケアに取り組んでいる。自宅で最期を迎えたいという利用者・家族の希望を叶えるため、自宅に戻った利用者を職員が訪問・支援し、あたかも家族の一員として安らかな旅立ちにも立ち会っている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で救命救急講習会を開催し、知識や実践力を習得しております。また、緊急時対応マニュアルがあり、スタッフルームに掲示されております。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災訓練や避難訓練を実施し、消防署からの訓練指導を受けております。今年度は水害対策訓練を行い、車での避難、経路確認を実施しました。また、地域の方からも連絡網に入って頂いております。	年2回、うち1回は消防署の指導を受けてさまざまな事態を想定した防災訓練を実施している。地域住民の協力体制も整備されており、今年度は水害を想定し車両を使用して余目公民館までの避難訓練を行っている。防災グッズや食料の備蓄の他、自家発電装置も導入され広域災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の思いや気持ち、価値観を尊重し、言葉遣いや接遇に配慮しております。人生の先輩と敬いながら言葉かけや対応を行っております。	研修委員会が接遇研修等を通して人格の尊重を徹底している。利用者を生人の先輩として敬い、言動を否定せず、いやがることをせず、誇りを傷つけない言葉掛けや対応に努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助をする際には、ご本人の希望を確認してから行うようにしております。うまく伝えられない方には声掛けを工夫したり選択肢を提示し、表情などを観察して判断しております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースや一日の過ごし方を理解、把握し、本人に合わせた声掛けや誘い方に配慮し、その日の体調や気分、状態により本人の希望に沿えるよう対応しております。仕草や行動を見極め、個々の生活への思いを察するよう配慮しております。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に着る服を選んで頂いたり、出張理容にて希望の髪形に散髪したり、髪をピンで留めたりカラーで巻いたりとおしゃれを楽しまれています。利用者のこだわりや好みを尊重しながら清潔感を心掛け、季節や気温、場所に適した衣類等のアドバイスをしています。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会で嗜好調査を行い、旬の食材や行事食等の提供、利用者様の好む食材や調理法を活かし、味付けや盛り付けを工夫しております。個々の食事形態や禁止食、嫌いな物を把握し、バランスよく喜んで頂ける献立作りをしています。	給食委員会が利用者の嗜好調査を行い、家族や運営推進会議委員のアンケート結果をメニューに反映させ、旬の食材を使用した献立を作成し、3食ともユニット・キッチンで調理している。利用者は調理に参加し、味付けや盛り付けを工夫するなど食事を楽しめるよう支援している。また、行事食や外出レク時の外食等でアクセントにも配慮している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態で提供し、水分、食事量を確保できるようにしております。チェック表にて摂取量を把握し、食事が十分でない方には高カロリー食を、水分不足の方にはゼリーや寒天等好んでとって頂ける物を工夫しております。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂き、できない所は一部介助を行っております。歯科医と連携し、利用者様一人ひとりに必要なケアの助言を頂き、実施しております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い排泄パターンを把握し、個々に合った対応で定時、随時で声掛け誘導を行い、尿意を訴えられない方は排泄の兆候を確認したら誘導し失敗を減らすよう努めております。また、トイレで排泄できるよう下肢筋力の低下防止にも努めております。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、適時声掛けや誘導を行い、トイレで排泄出来るよう支援している。便座に座らせて排泄を促すことでおむつを減らす工夫をしたり、軽体操や歩行訓練等を行うことで下肢筋力の低下防止に取り組んでいる。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて状況を把握し、主治医や看護師と連携をとり個々に合った排便コントロールを行っております。朝に白湯や牛乳を提供したり、体操や運動をして水分を多くとって頂き、腸の動きを活発にして便秘解消に取り組んでいます。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴日を設けていますが、その日の体調や本人の希望に合わせて時間や曜日を変更し、希望に沿うよう調整しております。入浴中は会話やマッサージ等を行い、リラックスできるよう配慮しております。個浴が困難な方には機械浴を利用して頂いております。	利用者の希望に沿って週2回の入浴を支援し清潔の保持に努めている。身体状況に応じて安全に入浴できるよう一般浴槽2室のほか特殊浴槽も設置されている。家庭的な雰囲気を楽しめるよう出来るだけ個浴での入浴を支援し、柚子や菖蒲等の変わり湯は利用者に喜ばれている。入浴後リラックス出来るよう自動マッサージ機も設置されている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や疲労感等、その時の状況に応じ、休息をとれる環境を整えております。日中に活動の場を提供し、夜間は安眠し生活のリズムが整うよう支援しております。また、季節や気温の状況を考え、寝具、室温、寝間着等個々に合った物を提供し、気持ちよく就寝できるよう支援しております。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの既往歴や疾患の特徴、内服薬の用法用量、副作用等、各担当者がリストをまとめ、いつでも確認できるようにしております。服薬時も職員二人以上でチェックし、確実に服用できたか確認しております。また、症状の変化を観察し、主治医に随時報告しております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方には掃除や食事の手伝い等、役割を持って頂き、園芸が好きな方は居室で鉢植えを育てたり、花や野菜の観察や助言を頂いております。また、慰問や散歩、行事等行い気分転換を図り生き生きとした生活が出来るよう支援しております。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て外食や一時帰宅等、希望に沿えるよう支援しております。天気の良い日は戸外に出て、日光浴や散歩を楽しんでおります。	月1回のドライブ、夏祭りや芋煮会、ウッドデッキでのお茶飲みや日光浴、散歩等外気に触れる機会を数多く確保している。また、家族の協力を得て、一時帰宅・墓参り・外食等が出来るよう支援している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談しながら、所持金を自分で管理している方は、必要に合わせ買い物等行っております。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけております。手紙や宅急便が届いた際は電話し、お礼の手紙や写真を送ったりしております。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓に努め、温度・湿度計を目安に必要なに応じ室温、湿度調整、換気を行い利用者様の体調や様子を観察しながら快適に過ごして頂けるよう調整しております。掲示スペースには利用者様が作成した作品や季節感のある飾り物をしております。	広い共有空間は毎朝掃除が行われ、適切な湿度・温度管理がなされ、清潔に管理されている。室内は落ち着いた色調で統一され、心安らぐ空間となっており、さりげない飾り付けを行うことで、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室や廊下のベンチ、ソファ、食卓のテーブルと、一人になりたい時、他者と仲良く過ごしたい時等、自由に行き来し思い思いに過ごせる場所を多様に設けております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、本人が普段使用していた物や安心できる物を持ってきて頂き、安らげるよう自宅に近い雰囲気になっております。仏壇、テレビ、アルバムや写真立て、本棚、装飾品や人形等、様々な物が居室に置いてあります。	馴染みの調度品、家族の写真等を持ち込み、好みの飾り付けを行うことで自宅に居ると同じ雰囲気で居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、補助具を使用したり、居室の入り口にぬいぐるみを下げたり、トイレの文字を大きく掲示したり、理解しやすいように援助しております。危険防止に努め自立した生活が安全に送れるよう工夫しております。			